



労働組合って なんだろう

● 武田 幸喜

国労東日本本部 組織部長



今さらながら労働組合とは何なのかを考えている。

自分自身は38年前、労働組合など全く分からないで職場に配属されました。国鉄最後の採用で、職場には国労の方が多く、他にも2つの労働組合の方がいました。半年様子を見ていましたが、結果、国労に加入しました。配属時、職場では、入浴闘争等が行われていて、変な職場だなと思いました。しかし、国労だけでなく全部の組合の人が時間中に入っていました。私は大勢で入るのが嫌だったので、入ったことはありませんでしたが、みんなが入っているのに、国労だけ問題にされるのは違和感がありました。

当時は何もかもが手作業が基本。電車のグリスアップも素手でやらないと怒られていた時代。木造客車が多かったため、保線などでは垂れ流しのトイレの糞尿被害があった時代。だから職場に戻れば風呂は欠かせないと説明された事があって、入浴も納得しました。

今では、垂れ流しの車両も無く、素手でやるような状況でもなくなり、入浴闘争も過去の思い出となっていますが、様々な不満や不安は今でも出されています。

春闘の取り組みとして、職場では一人一要求の運動を取り組んでいます。一人一人の思いをまとめ、現場長や支社、本社へ伝え、働きやすくするためです。

未加入となった皆さんからも思いを出してもらい、会社に伝えるようにする努力も2年前からはじめました。

今年の一要求では、「職名と仕事が逆転している。3～4年目の社員が上位職の責任を持たせられるのはおかしい」「女性用の軍手、軍足、マスクを準備してほしい」「パソコンを増備してほしい」など若手の声が届きました。

それらの声からは、①私の職場の特性上、職名に関係なく班長が決められ、仕事を仕切る時がある。急激な若返りが図られるなかで、会社方針で、若手に班長を任せる状況が出て来ている。年配者は、漠然と見ているが、賃金も低く、あまり意見も言えない若手が班長に

なることが嫌だと同時に、責任を持たされる事に疑問を感じている。

②車両職にも女性社員が配属されるようになり、軍手なども男を基準にしているのも、誰も気づかずにいた。それくらいは準備されているのだろうと。

③マイプロなど様々な事をやる上で、パソコンが数台しかなく、仕方なく超勤でやっていたが、早く帰る年配者は気づかずにいた。など、色々な事が見えてきました。

会社は、社員の声を聞いているとして、全職場の寝具を取り替えたことなどを掲示しています。また、若干ですが、備品の取り替えなども行うようになっています。

しかし、一要求のような声は伝わっていないのか、聞かないのかは分かりませんが、本当に何とかしてもらいたい所には手を出さないでいるように思います。

今の職場での大きな声は、労働時間の短縮と、年配者が多いからですが、エルダー制度の改善です。

一向に休みが増えない状況。山の日さえ特別休日にならない実態。希望とかけ離れたエルダー提示。若手も年配者も不安と不満が一杯です。

これらの声をまとめ、改善させるのは労働組合にしか出来ません。働く人の身になって考えるのが労働組合からです。

2年前から職場過半数代表選挙が行われています。労働組合を嫌悪する社員が多くなったと言われていますが、国労の組合員も代表に選出されている職場が多くあります。労働条件を良くしてもらいたいという事が表れていると感じています。

でも過半数代表者に出来ることは限られています。やはりみんなの声を集めて(要求)、会社に思いを伝える(交渉)事ができる労働組合の役割と必要性を広めて行かなければならないと春闘の取り組みから感じているところです。

労働組合に入ろう!国労に加入しよう!